

# 大分県長期漁海況予報

〔平成 31(2019)年 1～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部  
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

## 海況経過<平成 30 年 8～12 月>

### ■黒潮

都井岬沖では、概ね接岸傾向で推移した。

### ■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、平年(1988～2017年)と比較し8月は「やや高め」、9月は「平年並み」、10月は「やや低め」、11月は「やや低め」、12月は「平年並み」で推移しました(図1)。

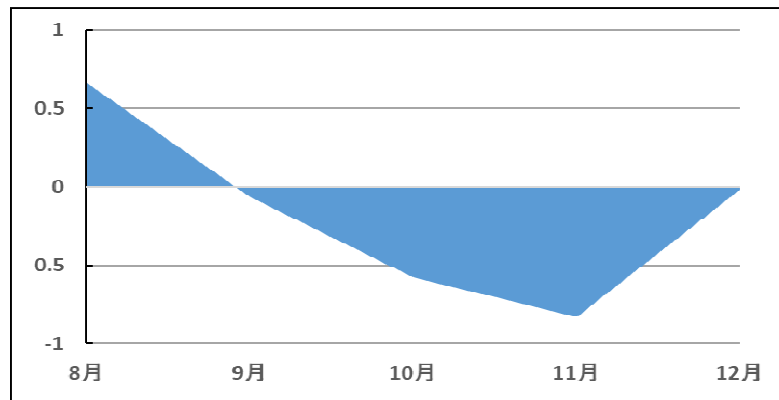


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

### ■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、平年(1988～2017年)と比較し8月は「平年並み」、9月は「平年並み」、10月は「低め」、11月は、「平年並み」、12月は「平年並み」で推移しました(図2)。

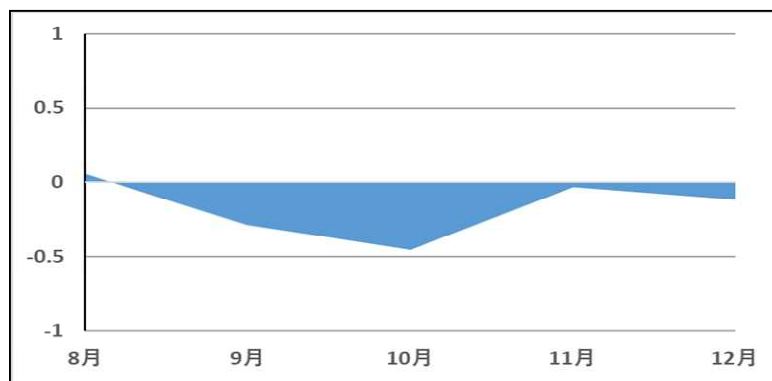


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

## 今後の海況の見通し<平成 31 年 1~6 月>

### ■黒潮

都井岬沖では、3月までは概ね接岸傾向で推移し、4月以降かなり離岸するでしょう。

### ■沿岸水温

「高め」で推移するでしょう。

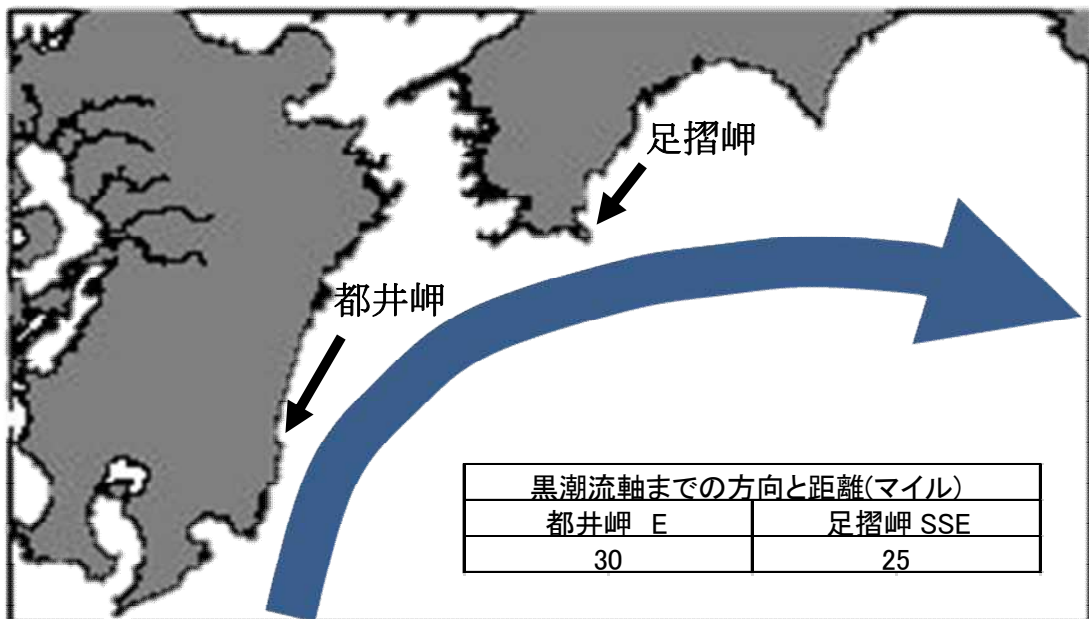
### ■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 30 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2018)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区气象台から平成30年12月25日に発表された「九州北部地方3ヶ月予報」では、「低め20%、平年並み30%、高め50%」と予測していることから沿岸水温は高めで推移すると思われます。

### ■黒潮現況

海上保安庁発行の海洋速報によると、現在黒潮は都井岬、足摺岬で接岸している模様です。(平成 31 年 1 月 15 日発行第 8 号)



都井岬離接岸階級	0~30	31~50	51~75	76~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸
足摺岬 離接岸階級	0~25	26~45	46~65	66~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸

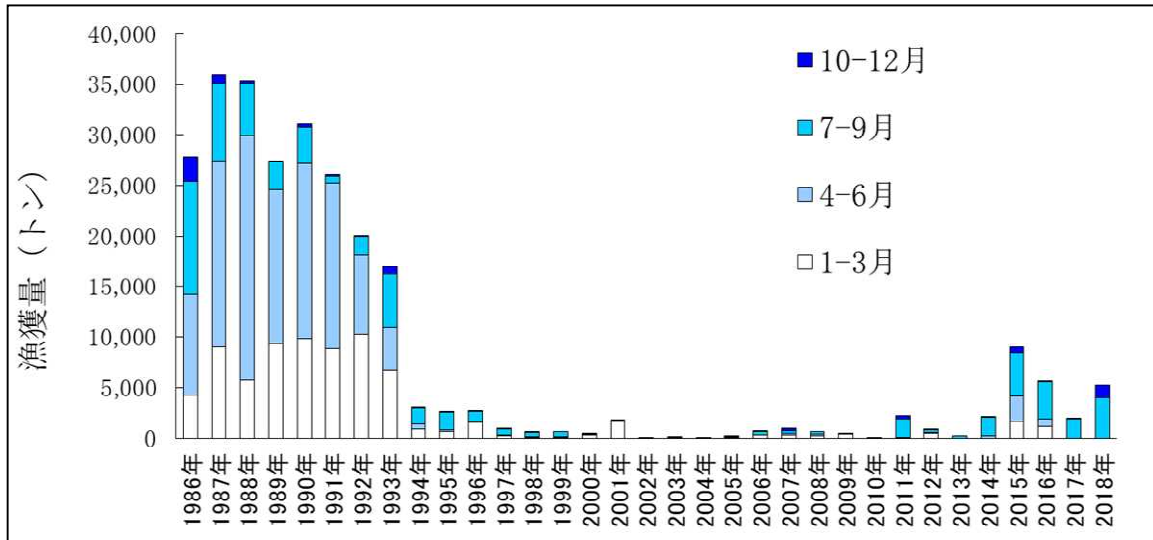
図 3 海上保安庁観測による平成 31 年 1 月 15 日現在の黒潮流路

## ■マイワシ

### □2018年7～11月の漁況経過

2018年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は5,292トンで、前年比286%、1986～2017年の平均値(以下「平年」という)の比が264%と、前年、平年を大きく上回りました。漁獲の主体は被鱗体長<sup>(用語解説①)</sup>11.0～15.0cmの0歳魚(2018年生まれ)でした。

なお、近隣海域<sup>(用語解説②)</sup>では宮崎県は前年の56%、愛媛県は前年の45%、高知県では前年の約521%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2018年8～11月、その他は2018年7～11月の漁獲量合計値)。



※2018年は11月まで

図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2019年1～6月>

### 来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2018年1-6月:2トン)



### 漁獲対象年生まれ及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1・2歳魚(2017・2018年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2019年生まれ)が主体となるでしょう。

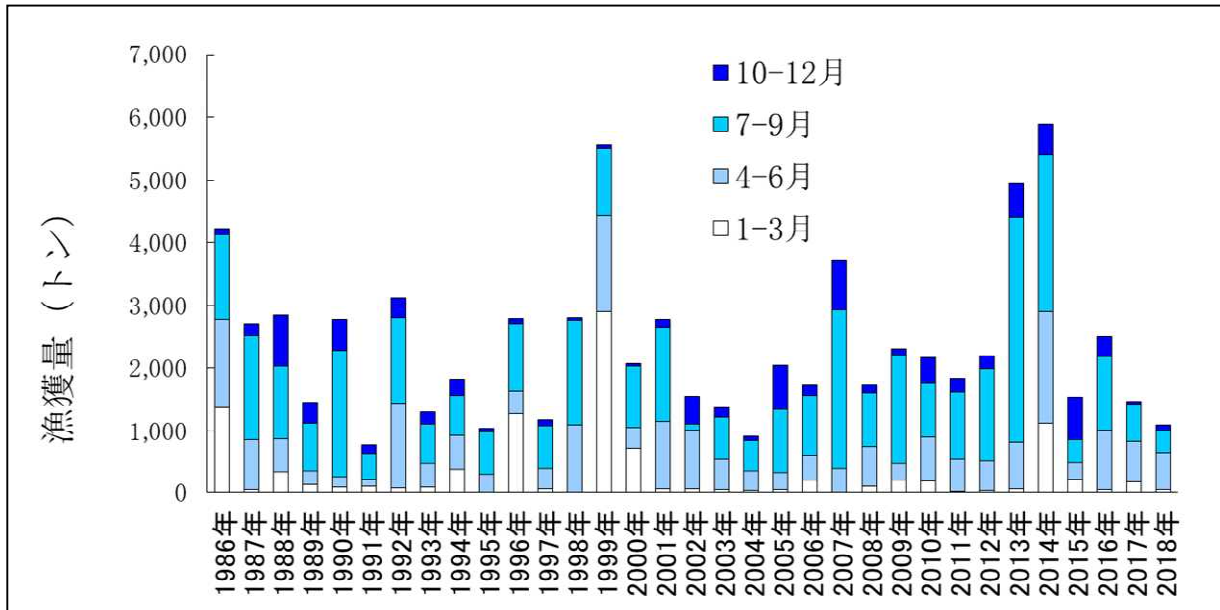
### 【説明】

2018年4～11月は、0歳魚(2018年生まれ)が主体に5,294トン漁獲され前年を上回りました(前年比285%)。2018年生まれは1～3月も引き続き漁獲の主体となるので、1～3月の来遊水準は前年を上回ると考えられます。4月以降に漁獲される0歳魚(2019年生まれ)の来遊水準については現段階では不明ですが、2018年4～6月の漁獲量が2トンと極めて少なかったため、4～6月の来遊水準も前年を上回ると考えられます。以上のことから漁獲量は前年を上回ると予想しました。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### □2018年7～11月の漁況経過

2018年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は438トンで、前年比70%、平年比31%と、前年および平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は7、8、9月は被鱗体長6.0～8.5cm前後の0歳魚(2018年生まれ)、10月は5.0～10.0cm前後の0歳魚(2018年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の40%、愛媛県では前年の104%、高知県では前年の95%の漁獲量となっています。(愛媛県のみ2018年8～11月、その他は2018年7～11月の漁獲量合計値)。



※2018年は11月まで

図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2019年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2018年1～6月:648トン)

### 漁獲対象年生まれ及び体長:

1～6月は1歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

### 【説明】

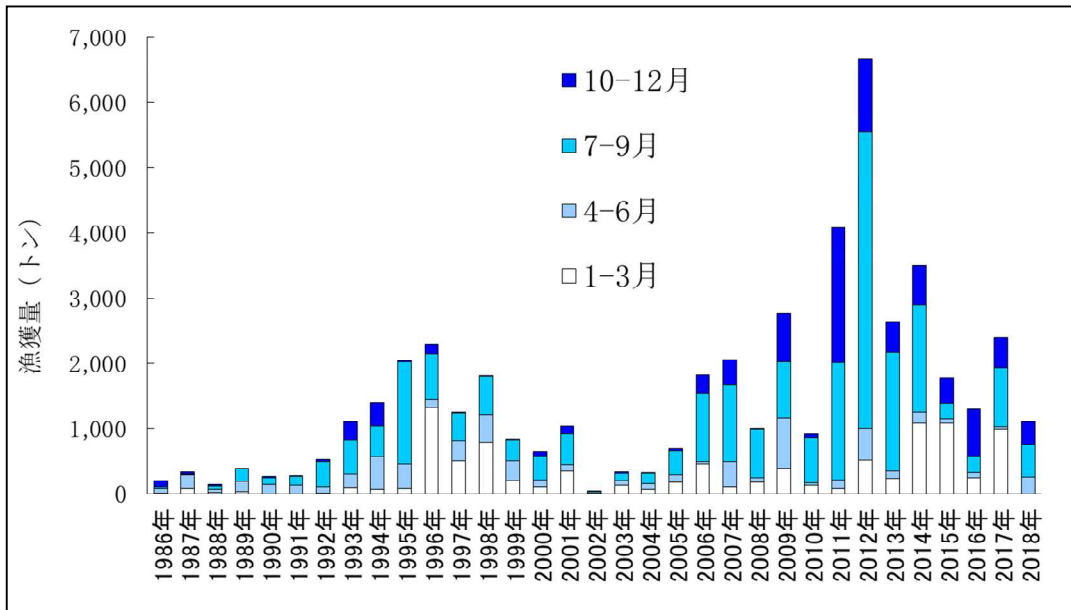
例年、1～6月は1歳魚が漁獲の主体となります。0歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体だった2018年7～11月の漁獲量は438トンで前年比70%であり、前年を下回っていることから、明け1歳魚(2018年生まれ)の漁獲は低水準で推移することが予想されます。したがって予想は前年を下回るとしました。

## ■ウルメイワシ

### □2018年7～11月の漁況経過

2018年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は859トンで、前年比63%、平年比96%と、前年を下回り、平年並の漁となりました。漁獲の主体は、7、8月は6.0～10.0cm前後の0歳魚(2018年生まれ)、10月は10.0～14.0cm前後の0歳魚(2018年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の127%、愛媛県では前年の62%、高知県では前年の59%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2018年8～11月、その他は2018年7～11月の漁獲量合計値)。



※2018年は11月まで

図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

### 今後の見通し<2019年1～6月>



#### 来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2018年1-6月:242トン)

#### 漁獲対象年生まれ及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1歳魚が主体となり、4～6月は被鱗体長10cm前後の0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

#### 【説明】

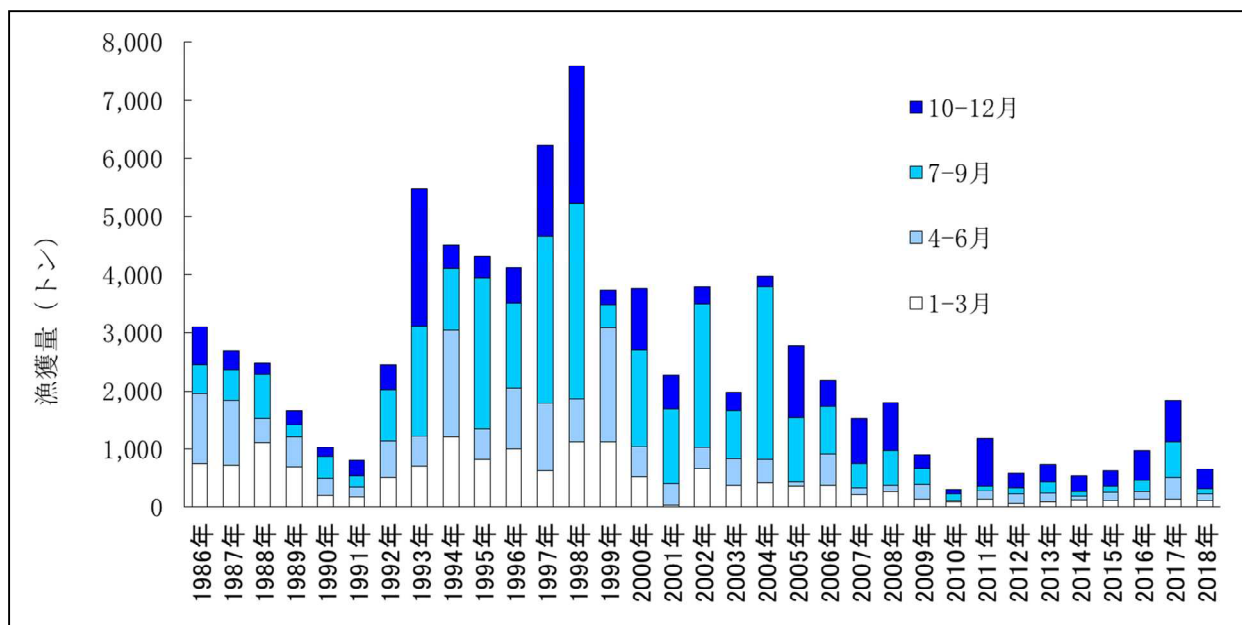
1～3月は明け1歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体となると考えられます。0歳魚(2018年生まれ)が主体だった2018年4～11月の漁獲量は1,100トンと前年を下回りました(前年比79%)。しかし、前年比80%近くの漁獲があることや、2018年1～4月は漁獲がなかったことも踏まえて、来遊水準は前年並～下回ると予想しました。

## ■マアジ

### □2018年7～11月の漁況経過

2018年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は432トンで、前年比34%、平年比29%と前年・平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は、尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>11.5～17.0cm前後の0歳魚(2018年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の47%、愛媛県では前年の81%、高知県では銘柄「アジ」が前年の101%で銘柄「ゼンゴ」が前年の512%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2018年8～11月、その他は2018年7～11月の漁獲量合計値)。



※2018年は11月まで

図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2019年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2018年1-6月:227トン)

### 漁獲対象年生まれ及び体長:

尾叉長15cm前後の1歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

### 【説明】

例年1～6月は、1歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体となると考えられます。0歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体であった、2018年9～11月の漁獲量は394トンで前年比40%であったことから、来遊水準は前年を下回ると予想しました。

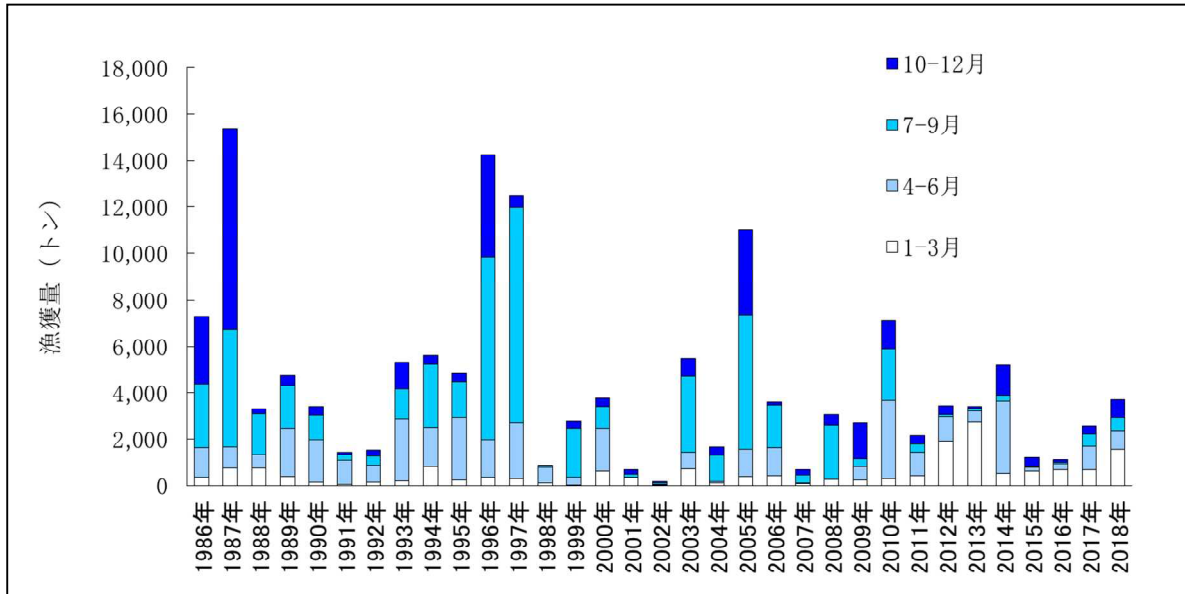


## ■さば類

### □2018年7～11月の漁況経過

2018年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は1,333トンで、前年比157%、平年比50%と前年を上回り、平年を下回る漁でした。漁獲の主体は、マサバ・ゴマサバともに尾叉長21.0～25.0cm前後の0歳魚(2018年生まれ)でした。例年ゴマサバ主体ですが、10・11月にはマサバ主体の漁獲がありました。

なお、宮崎県では前年の208%、愛媛県では前年の321%、高知県では前年の488%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2018年8～11月、その他は2018年7～11月の漁獲量合計値)。



※2018年は11月まで

図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2018年1～6月>

### 来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2018年1-6月:2,371トン)



### 漁獲対象年生まれ及び体長:

これまでの調査結果によれば、1～3月はマサバ・ゴマサバ1歳魚以上が主体となります。4月以降はゴマサバが主体となり2～3歳魚に0～1歳魚が混じるでしょう。しかし、近年は4月以降もマサバの漁獲が多く見られます。

### 【説明】

予測期間中は30cm以上のマサバ・ゴマサバ(1歳魚以上)が漁獲の主体となります。2018年7～11月は0歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体で、その漁獲量は1,333トンであり、前年比157%だったことから1～6月の来遊水準は前年を上回ると予想しました。

## その他

### ■予測の根拠および参考資料

・平成30年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2018)

URL: <https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20181225/index.html>

### ■用語解説

- ①被鱗体長 :体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 :ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6  
電話:0972-32-2155  
FAX:0972-32-2156